

牛久：学校周辺に見る自然

第39号 牛久二小

2012年11月13日発行

＜ 秋の植物たち ～冬越しに備えて ①種子散布＞

牛久二小4年2組との「校庭の秋の生き物観察」、今度は、植物たちの冬越し準備です。まず最初に種子散布について。多くの植物たちは、子孫を残し仲間を増やすために、秋に果実を实らせ種子散布をします。そのやり方はいろいろで、風など自然の力にまかせるものもあれば、動物に運んでもらうものもあります。

グラウンドの北側に植えられている**タラヨウ**は、赤く熟して鳥たちを引きつけ食べられます。カキの木のまわりの**シャリンバイ**は黒く熟しますが、やはり鳥が大好きです。校舎南側の斜面では、**シロダモ**が赤い実をつけてヒヨドリが盛んに食べています。最近になって花も咲き始めましたね。ビオトープのすみでは**マユミ**がかわいらしい実をぶら下げているのを見つけてくれました(Vサインは〇〇さん)。鳥が食べて種子を運んでくれる木の実は、このように赤や青、黒などに熟して、色彩感覚に優れた鳥たちの目につくように進化したようです。それにしても、おおぜいの目で探すと、いろいろ見つかりますね。



鳥が果実を食べて種子散布をするタラヨウ(左上)、シャリンバイ(左中)、シロダモ(左下)、マユミ(右)。



ねばねばの液を出して、動物の体にくっついて果実が運ばれるチヂミザサ（イネ科）。

同じく動物に運ばれますが、食べられるのではなく体にくっついて運ばれる植物もあります。そのくっつき方もいろいろで、オナモミやセンダングサの仲間のようにトゲやフックでひつつくものもあれば、写真の**チヂミザサ**やオオバコのように、ねばねばの液を出してくっつくものもあります。



種子のまわりに翼がついていて、風に運ばれるスギ(左)とアキニレ(右)。

「おもしろい実を見つけたよ～」と見せてくれたのは、スギの実（正しくは球果^{きゅうか}といって、松ぼっくりみたいなもの）でした。種子は種皮^{しゅし しゅひ}（種子の皮）がのび広がった翼^{つばさ}で風に乗って運ばれます。ウサギ小屋の近くのアキニレも翼^{つばさ}で風に運ばれますが、こちらの翼は果実（の皮）がのびたもの。形も似ていて同じはたらきでも、別のものからできているのですね。ふだん^{なげ}何気なく見ているものでも、こうしてじっくり観察すると、いろいろおもしろいことが分かりますね。【理科支援員 宮内】